



平成28年2月5日
海上保安庁

西之島の火山活動の状況（2月3日観測）

2月3日に当庁航空機により西之島の火山活動の観測を実施したところ、噴火は認められませんでした。当庁による毎月の観測では、昨年11月17日の観測を最後に噴火は確認されていません。

2月3日に羽田航空基地所属航空機（MA725 みずなぎ）により西之島の火山活動の観測を実施しました。

1. 噴火の状況

火砕丘にある火口からの噴火は認められず、火口縁南からごく弱い白色噴気が放出されているのみでした（図1）。地表には新たな溶岩流は認められず、顕著な地形変化も確認できませんでした。

熱計測による地表の推定温度は、火口底は20℃前後ですが、火口縁には50℃以上を示す高温域が存在しています。また、火砕丘周辺の溶岩原には100℃以上の高温域が点在しています（図2）。この高温域の分布や推定温度は、前回（1月19日）の観測結果とほとんど変化はありません（図3）。

西之島の北岸沿いには薄い褐色の変色水域が、その他の海岸には青白色の変色水域が、それぞれ海岸から沖に向かって幅約200～400mで分布していました（図4）。

約1時間の観測中の噴火は認められなかったものの、西之島の火山活動は引き続き継続しており、今後も噴火による影響が及ぶおそれがあることから、西之島及び周辺海域（島の中心から半径4kmの範囲）においては、付近航行船舶へ引き続き航行警報により警戒を呼びかけています。

2. 新たに形成された陸地の状況

前回（1月19日）の当庁航空機による観測と比較して、面積にほとんど変化は認められませんでした（図5）。

同乗した東京工業大学火山流体研究センターの野上健治教授からは、「変色水域の色調と分布から、島の北側浅部に若干活発な熱水活動があると考えられるが、前回 1 月の観測と比べて大きな変化は認められない。マグマの供給は停止しているものと推察される。」

とのコメントが得られました。

○2月3日時点での新たに形成された陸地の形状（暫定値）

- ・東西：約 1,900m（1月19日時点 東西：約 1,900m）
- ・南北：約 1,900m（1月19日時点 南北：約 1,900m）
- ・面積：約 2.63 平方 km、東京ドームの約 56 倍

（1月19日時点 約 2.63 平方 km、東京ドームの約 56 倍）

（参考）西之島全体の面積（旧西之島を含む）：約 2.64 平方 km

（噴火前の西之島の約 12 倍）

○西之島の面積の比較

基準とする事物	面積	各事物に対する西之島 (12/22 時点) の広さ
	(km ²)	
東京ドーム	0.0468	約 56 倍
バチカン市国 [世界で最も小さい国]	0.44	約 6.0 倍
仁徳天皇陵	0.479	約 5.5 倍
東京ディズニーリゾート	1.003	約 2.6 倍
大阪城公園	1.06	約 2.5 倍
南鳥島 [日本最東端]	1.51	約 1.8 倍
モナコ公国 [世界で 2 番目に小さい国]	2.02	約 1.3 倍
西之島 (2/3)	2.64	



図1 火砕丘と火口の様子 (2月3日撮影)

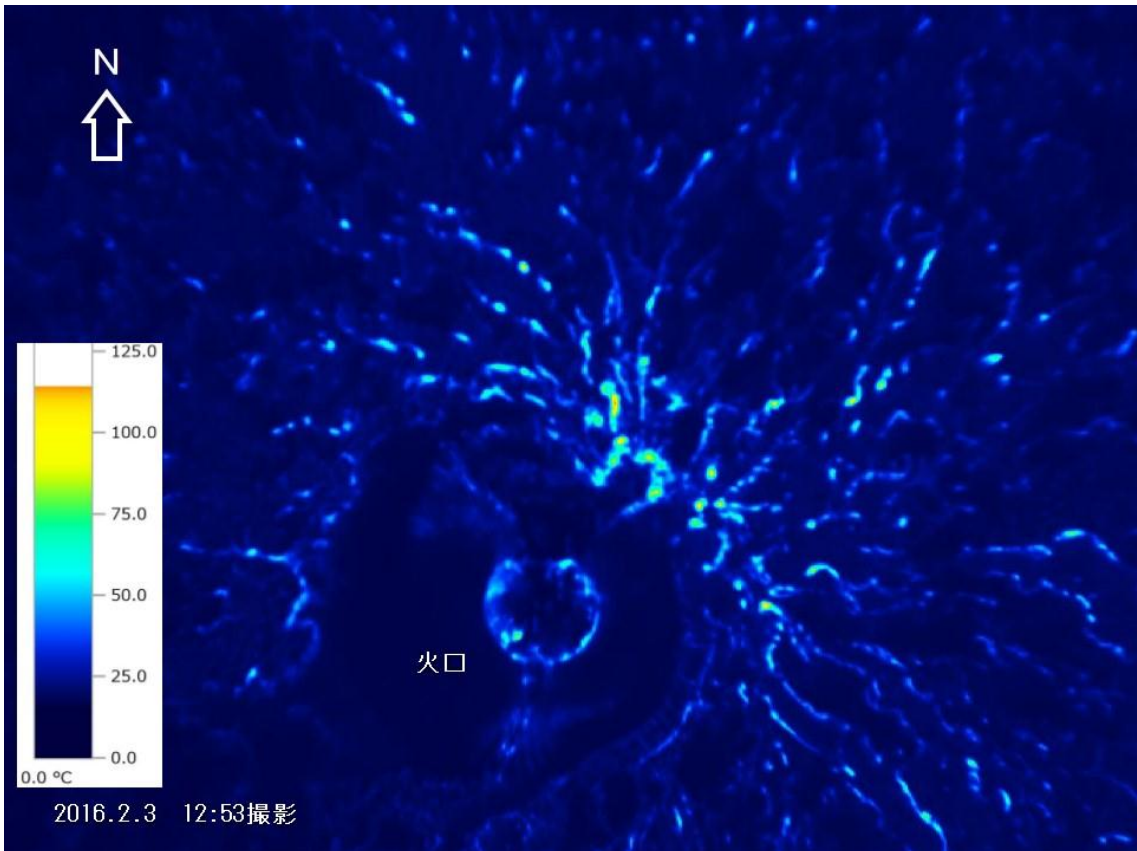


図2 地表の熱画像 (2月3日撮影)

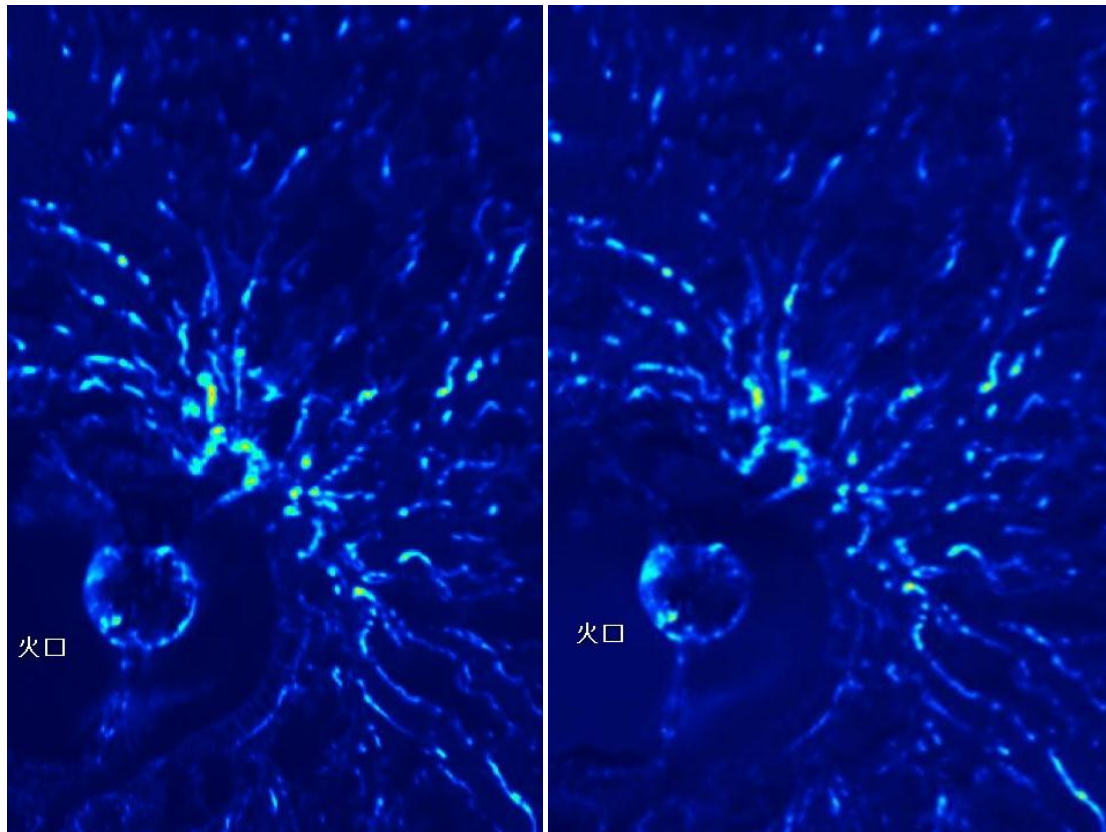


図3 地表の熱画像の比較（左：2月3日撮影、右：1月19日撮影）

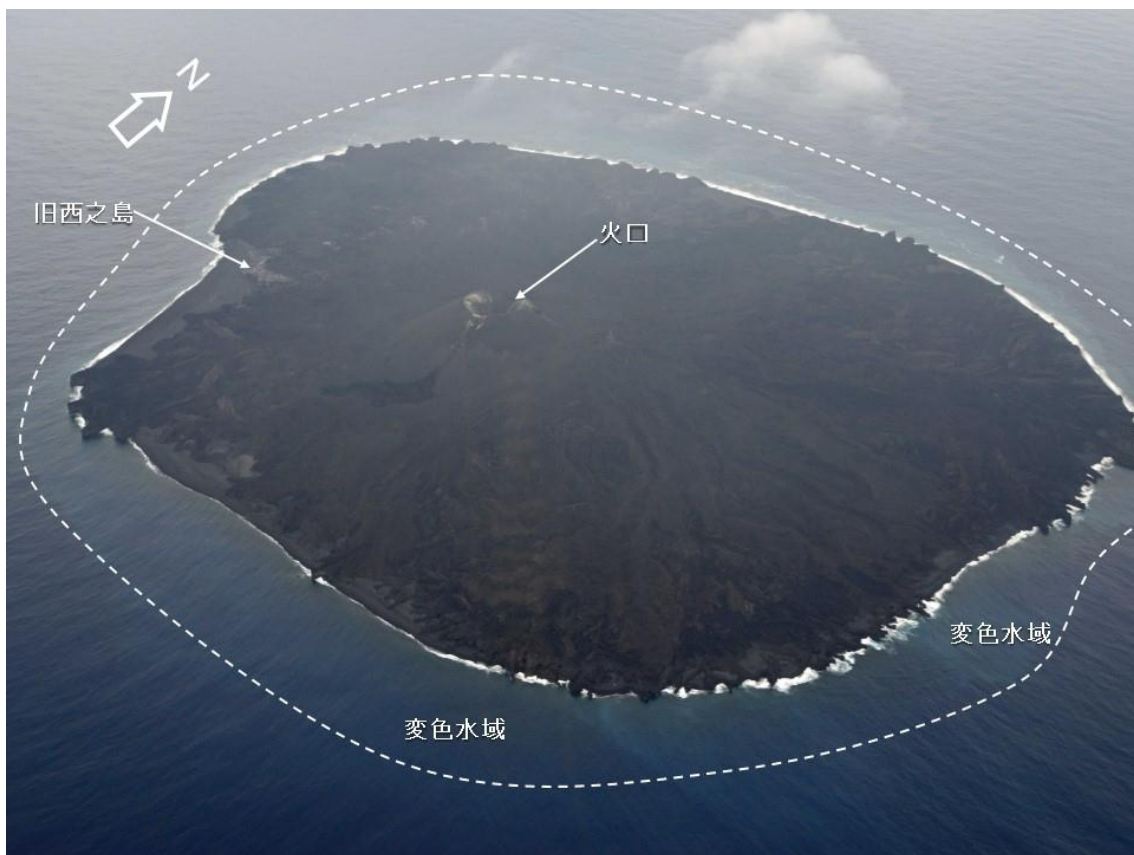


図4 西之島周囲の変色水域の分布（2月3日撮影）

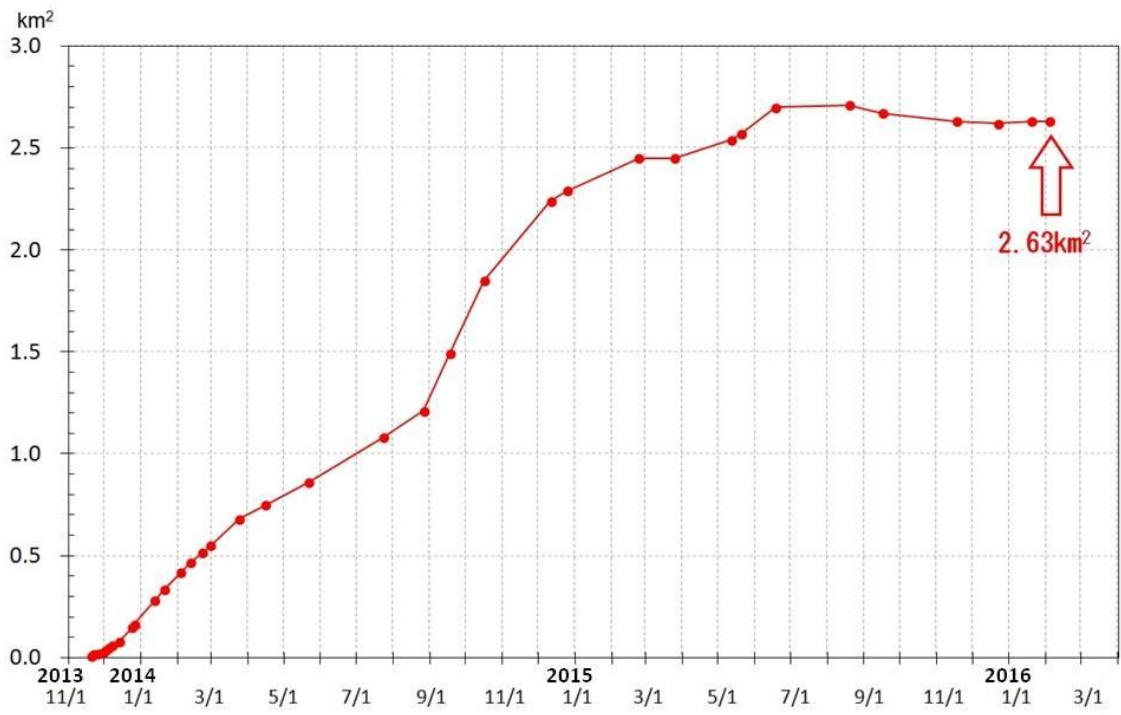


図5 新たに形成された陸地の面積の変化